

日本の小学校における世界遺産教育の現状と課題

Existing Conditions and Prospects of World Heritage Education Program in Elementary Schools in Japan

吉井 沙織
YOSHII Saori

1. はじめに

(1) 研究背景

世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約第27条¹⁾に基づき、ユネスコは、平成6年(1994)から若者を対象として「World Heritage Education Programme」(若者のための世界遺産教育プロジェクト)を開始した²⁾。その一環として、平成10年(1998)、世界遺産教育に関わる教師用教材として『World Heritage in Young Hands』を発行した。平成12年(2000)3月には、日本語版『若者の手にある世界遺産』に翻訳された。

日本における世界遺産教育の先進的な地域としては奈良県奈良市があげられる。奈良市では平成13年度から市立小学校5年生全員を対象として現地見学を中心とした世界遺産学習を実施しており、本物の文化財にふれる、奈良らしい教育を推進している³⁾。

日本における世界遺産教育に関する既往研究は10年程度と蓄積は浅い。田淵ら⁴⁾(2007)は世界遺産教育を「世界遺産についての教育」、「世界遺産のための教育」、「世界遺産を通しての教育」の3つに分類している。「世界遺産についての教育」は、世界遺産についての知識や理解を深め、世界遺産の大切さを次世代に伝えようとする態度の育成を目的とし、「世界遺産のための教育」は世界遺産に接する態度に焦点を合わせることを目的とし、「世界遺産を通しての教育」は、世界遺産を事例として、国際理解や環境保全の意義を深めたり、平和や人権の尊さを自覚させたりすることを目的としている。

奈良市以外の地域の世界遺産教育に関しての実態はほとんど明らかになっていない。本研究では「世界遺産についての教育」に着目し、日本における世界遺産教育の実施の現状と問題点を把握することを目指す。これはユネスコが目指している世界遺産教育の普及にも繋がると考えられる。ま

た、今後日本で世界遺産を利用した学習の可能性を検討する必要があると考える。

(2) 研究目的

本研究の目的は下記の通りである。

- ・教科書や学習指導要領から小学校における世界遺産教育の基本的な背景を把握する。
- ・小学校における地域の文化遺産及び地域外の世界遺産に関する現状や要望について明らかにする。
- ・島根県大田市を対象に、具体的な世界遺産教育を実施している小学校の現場での工夫や課題を明らかにする。
- ・上記3点の結果から、現在の日本の小学校に適した世界遺産教育の在り方を考察する。

(3) 論文構成及び研究方法

本研究では、まず、文献調査より小学校教育における世界遺産教育の背景を把握する。

次に、アンケート調査を実施し、小学校における世界遺産に関する教育・学習の現状と自治体の今後の意向について明らかにする。

また、ヒアリング調査を実施し、大田市で推進されている「石見銀山学習」の現状と課題、今後の意向等について調査する。

第5章では、論文全体の考察として、結論をまとめる。

2. 小学校における世界遺産教育の現状

(1) 小学校学習指導要領

現在施行されている小学校学習指導要領には「世界遺産」という記載はない。

しかし、平成23年4月から全面施行されている小学校学習指導要領においては、「生きる力」を育むという理念が組み込まれている⁵⁾。文部科学省が発行している「生きる力」に関する紹介パンフレットには、具体例として、社会科の授業におけ

る「世界文化遺産や国宝などの文化遺産を取り上げる歴史学習（小学校6年生）」⁶⁾とあげている。

以上から、小学校の教育課程において「生きる力」を育むための材料の一部として世界遺産が想定されているといえる。

(2) 現行の小学校用教科書(社会・地図)の世界遺産に関する内容

小学校用教科書(社会・地図)^{注1)}には世界遺産や世界遺産に関する記述がみられる。

現行の小学校用教科書(社会・地図)における世界遺産及び世界遺産に関する内容の記載状況を調査した結果、世界遺産及び世界遺産に関する内容の記載が見られた小学校用教科書は(社会)が28種類中19種類、(地図)は2種類であった(表1)。

表1 世界遺産に関する記載が見られる小学校用教科書
(社会・地図)一覧

発行出版社	使用学年	書名	頁数
東京書籍	3・4	新しい社会3・4下	164
	5	新しい社会5上	100
		新しい社会5下	116
	6	新しい社会6上	156
新しい社会6下		80	
教育出版	5	小学社会5上	174
		小学社会5下	72
	6	小学社会6上	158
		小学社会6下	88
光村図書出版	5	社会 5	226
	6	社会 6	226
日本文教出版	3・4	小学社会 3・4年下	166
	5	小学社会 5年下	104
	6	小学社会 6年上	152
		小学社会 6年下	72
	3・4	小学生の社会 3・4下 住みよい社会	138
	5	小学生の社会 5下 国土のようすと情報	104
		小学生の社会 6上 日本の歩み	162
6	小学生の社会 6下 世界の中の日本	76	
東京書籍	4-6	新しい社会科地図	72
帝国書院	4-6	楽しく学ぶ 小学生の 地図帳 4・5・6年 最新 版	76

全ての出版社に共通して、小学3・4年上巻には世界遺産及び世界遺産に関する内容の記載が見られなかった。また、日本文教出版では、小学5年上巻にも世界遺産及び世界遺産に関する内容の記載が見られなかった。

小学校用教科書(社会)19種類から世界遺産や世界遺産に関連する記載内容と小学校用教科書の種類数を調査し、その内容を下記の5つに分類した。

① 世界遺産に重点を置いた内容 13種類

- ② 特定の世界遺産が題材とされている内容 6種類
- ③ 世界遺産と記載されている内容 12種類
- ④ 世界遺産に関連する内容 13種類
- ⑤ 世界遺産暫定リストに登録されている文化遺産に関連する内容 7種類

小学校の教育課程において「生きる力」を育むための適した材料の一部として世界遺産が想定されているといえる。また、小学校用教科書(社会)における世界遺産の記載内容は多岐にわたり、「世界遺産」の明記が多いことから世界遺産を強調していると考えられる。現在の日本の小学校における教育課程では世界遺産教育の実施が可能であるといえる。

3. 世界遺産教育の現状

(1) アンケート調査実施概要

世界遺産リスト及び世界遺産暫定リストに登録されている文化遺産が所在する98件(97市町村)^{注2)}の教育委員会へアンケート調査を実施した。平成25(2013)年7月26日(金)より、アンケート調査表を書類にて郵送し、返却数は72件(回収率73.4%)であった。調査項目^{注3)}は、地域の文化遺産に関する学習、地域外の世界遺産に関する学習、世界遺産教育の要望の3つに大別した。

(2) 地域の文化遺産に関する学習

地域の文化遺産とは、アンケートを送付した各自治体内に所在する世界遺産リスト及び世界遺産暫定リストに登録されている文化遺産を指す。地域の文化遺産に関する学習を何らかの形で実施しているのは残りの61件(84.7%)である。8割以上の自治体の管轄内の小学校において、地域の文化遺産に関する学習の実施されていることが分かる(表2)。

たないことが分かる。

表2 地域の文化遺産に関する学習 (N=72)

カテゴリ		回答数	%
a	教科の一部として、実施している	(すべての学校)	26 36.1%
		(一部の学校)	14 19.4%
		(すべての学校)	13 18.1%
b	「総合的な学習の時間」の一部として、実施している	(一部の学校)	32 44.4%
		未記入	2 2.8%
		(すべての学校)	4 5.6%
c	学校行事として実施している	(一部の学校)	17 23.6%
		未記入	1 1.4%
		(すべての学校)	0 0.0%
d	クラブ活動等として実施している	(一部の学校)	1 1.4%
		未記入	0 0.0%
e	実施していない	11	15.3%
f	その他(実施している)	7	9.7%
		無回答	0

(3) 地域外の世界遺産に関する学習

地域外の世界遺産とは、アンケートを送付した各自治体内に所在する世界遺産リスト及び世界遺産暫定リストに登録されている文化遺産以外を指す。地域外の世界遺産に関する学習は36件(50.0%)が実施している(「その他」の内3件は内容から判断し「実施している」に含めた)。半数の自治体における管轄内の小学校において、地域外の世界遺産に関する学習の実施されていることが分かる(表3)。

表3 地域外の世界遺産に関する学習 (N=72)

カテゴリ		回答数	%
a	教科の一部として、実施している	(すべての学校)	14 19.4%
		(一部の学校)	12 16.7%
		未記入	3 4.2%
b	「総合的な学習の時間」の一部として、実施している	(すべての学校)	0 0.0%
		(一部の学校)	17 23.6%
		未記入	3 4.2%
c	学校行事として実施している	(すべての学校)	0 0.0%
		(一部の学校)	5 6.9%
		未記入	2 2.8%
d	クラブ活動等として実施している	(すべての学校)	0 0.0%
		(一部の学校)	0 0.0%
e	実施していない	31	43.1%
f	その他	実施している	3 4.2%
		把握していない	2 2.8%
	無回答	3	4.2%

(4) 教科書・教材及び教師用手引きの有無

教科書・教材及び教師用手引きの有無や名称について全ての自治体に尋ねた。

① 地域の文化遺産に関する学習の場合

40件(55.5%)の自治体では教科書及もしくは教材を使用していることがわかる(表4)。しかし、教師用手引きがある自治体は3割程度に留まっている(表5)。教科書・教材及び教師用手引きを使用して地域の文化遺産に関する学習を実施している自治体は13件で、72の自治体の内2割にも満

表4 教科書・教材の有無 (N=72)

カテゴリ	回答数	%
a はい	40	55.6%
b いいえ	25	34.7%
無回答	7	9.7%

表5 教科書・教材の有無 (N=40)

カテゴリ	回答数	%
a はい	13	32.5%
b いいえ	27	67.5%
無回答	0	0.0%

② 地域外の世界遺産に関する学習の場合

教科書及もしくは教材を使用している自治体は約3割との結果が出た(表6)。地域の文化遺産を学習する際と比較すると、2割ほど少ない。教師用手引きがある自治体は3割程度に留まっている(表7)。科書及もしくは教材を使用している21の自治体の内、教科書・教材及び教師用手引きを使用して地域外の世界遺産に関する学習を実施している自治体は17で、8割に上った。

表6 教科書・教材の有無 (N=72)

カテゴリ	回答数	%
a はい	21	29.2%
b いいえ	37	51.4%
無回答	14	19.4%

表7 教師用手引きの有無 (N=21)

カテゴリ	回答数	%
a はい	17	81.0%
b いいえ	2	9.5%
無回答	2	9.5%

(5) 世界遺産教育の要望

① 世界遺産教育の要望

世界遺産教育の実施に関する自治体の意向を尋ねた。「a. 是非実施したい」「b. できれば実施したい」「c. 実施したいが難しい」と答えたのは48件(66.6%)で、約7割が何らかの形で実施を希望していることがわかった(表8)。

表8 世界遺産教育実施の要望 (N=72)

カテゴリ	回答数	%
a 是非実施したい	16.0	22.2%
b できれば実施したい	27.0	37.5%
c 実施したいが難しい	11.0	15.3%
d 実施しない	8.0	11.1%
e どちらともいえない	11.0	15.3%
無回答	5.0	6.9%

世界遺産教育の実施について「a. 是非実施したい」「b. できれば実施したい」と答えた全ての自治体に実施したい授業内容と実施に必要と考えるものについて尋ねた。

③ 実施したい授業内容

授業内容はa. 「地域の文化遺産(設問A)の価値と歴史」に関する学習、b. 「地域の文化遺産(設問A)」の保護、が8割以上で高い割合を表した(表9)。

これは小学校で地域の文化遺産に関する学習を重視したいと考えている自治体が大多数であることを表している。

表9 実施したい授業内容 (N=42)

カテゴリ	回答数	%
a 「地域の文化遺産」の価値と歴史に関する学習	36.0	85.7%
b 「地域の文化遺産」の保護(観光、文化財保護など)	34.0	81.0%
c 国内の世界遺産(地域以外)に関する学習	16.0	38.1%
d 海外の世界遺産に関する学習	11.0	26.2%
e 世界遺産のしくみ(保護の意義、登録過程など)に関する学習	11.0	26.2%
f 危機遺産に関する学習	8.0	19.0%
g その他	2.0	4.8%
無回答	1.0	2.4%

④ 実施に必要と考えるもの

「b. 教材」が約56%と最も多く、次が「d. 実施する人材」で約51%だった。「e. 実施する予算」「c. 教師用手引き」「f. 実現可能な時間割」も、約半数が必要と答えている(表10)。

表10 実施に必要と考えるもの (N=39)

カテゴリ	回答数	%
b 教材	22.0	52.4%
d 実施する人材	20.0	47.6%
e 実施する予算	19.0	45.2%
c 教師用の手引き	18.0	42.9%
f 実施可能な時間割	18.0	42.9%
a 世界遺産学習のプログラム	13.0	31.0%
g その他	1.0	2.4%
無回答	0.0	0.0%

④ 実施しないまたは困難な理由

世界遺産教育の実施について「c. 実施したいが難しい」「d. 実施しない」「e. どちらともいえない」と回答した全ての自治体に理由を尋ねた。

「f. 時間割に組み込む余裕がない」が最も高い割合であった(表11)。この理由は、世界遺産学習の実施に意欲的な自治体からも多くあげられていたもので、小学校の教育課程に世界遺産教育を組み込むことが困難である現状がわかる。

表11 実施しないまたは困難な理由 (N=26)

カテゴリ	回答数	%
f 時間割に組み込む余裕がない	16.0	53.3%
i その他	12.0	40.0%
無回答	11.0	36.7%
b 新たなガイドラインやプログラムを計画することが困難である	10.0	33.3%
c 世界遺産に関する学習の教材や教師用の手引きがない	9.0	30.0%
d 実施する教諭に負担がかかることが懸念される	9.0	30.0%
e 実施する予算がない	8.0	26.7%
a 具体的に何をしたいかわからない	5.0	16.7%
g 小学校で世界遺産を学ぶことに意義を感じられない	2.0	6.7%
h 世界遺産に関する学習に興味がない	0.0	0.0%

世界遺産教育の現状は、世界遺産教育を実施している地域が奈良市以外にもあり、世界遺産教育の実施を望む自治体も多い。教材の不足と実施時間の確保の難しさが課題としてあげられる。

4. 島根県大田市における世界遺産教育

(1) ヒアリング調査実施概要

島根県大田市内の小学校 16 校中 14 校、大田市教育委員会石見銀山課、「家の女たち」、NPO 法人「緑と水の連絡会議」にヒアリング調査を実施した(表 12)。

表 12 研究方法(ヒアリング調査)

ヒアリング対象	実施日	場所	項目
大田市内の小学校14校	平成25(2013)年 8月19日(月)～ 23日(金)、9月29 日(木)～30日 (金)、11月27日 (水)	大田小学校	「石見銀山遺跡とその文化的景観」の歴史や価値、文化財に関する学習、「石見銀山遺跡とその文化的景観」以外の世界遺産に関する学習、今後の意向等
		長久小学校	
		静閑小学校	
		鳥井小学校	
		久保小学校	
		北三郷小学校	
		池田小学校	
		川合小学校	
		久保小学校	
		大森小学校	
		高山小学校	
		温泉津小学校	
		仁座小学校	
		五十窪小学校	
大田市教育委員会	大田市教育委員会 石見銀山課 職員1名	石見銀山世界遺産センター	「石見銀山遺跡とその文化的景観」の歴史や価値、文化財に関する学習の現状や課題、今後の意向等
家の女たち	代表及び副代表	重要文化財 鎌倉家住宅	「音のくらし体験」の経緯、実施時期、効果等
NPO法人 緑と水の連絡会議	事務局長	施設公開館「ゆまみーる」	「ゆまみーる」の活動内容や「石見銀山遺跡とその文化的景観」との関係等



写真1 大田市教育委員会石見銀山課発行のパンフレット

② 現地学習

「石見銀山遺跡とその文化的景観」の構成資産のいずれかを複数選択し、現地学習を実施する。世界遺産センターの展示やガイド依頼、大久保間歩や大森の町並みを選択する小学校が多く、世界遺産センターで展示を見た後、大久保間歩や大森の町並みをガイドの方に案内してもらおうというコースが現地学習の主流のひとつと考えられる。

(2) 石見銀山学習

大田市では、平成 23(2011)年度より市内小・中学生を対象とした「石見銀山基金」を活用した「石見銀山学習」を実施している注4)。これは島根県教育委員会における重点施策である「ふるさと教育」の一環である7)。石見銀山学習は主に小学 6 年生を対象に、「総合的な学習の時間」に実施されており、〈事前学習〉〈現地学習〉〈事後学習〉の3段階に分かれている。ヒアリング調査を実施した 14 校全ての小学校が石見銀山学習及び石見銀山基金を活用した石見銀山現地学習を実施していた。

① 事前学習

ヒアリング調査を実施した 14 校全てが共通して調べ学習を実施している。大多数の小学校は大田市教育委員会石見銀山課が発行しているパンフレットやDVDを教材として事前学習を実施している。また、大田市の小学校の図書室には石見銀山学習に関する資料のコーナーが設けられている。

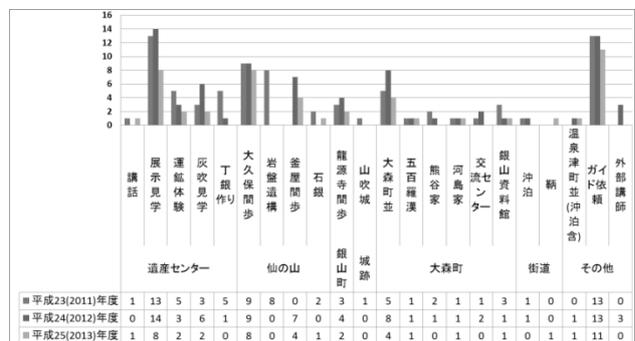


図1 平成23年度から平成25年度の石見銀山現地学習実施状況

③ 事後学習

事後学習は、事前、現地学習を踏まえてパンフレットや新聞、レポート等としてまとめる。まとめ方は各校様々であるが、2 学期の学習発表会で石見銀山学習の成果を外部に向けて発表することも多い。

(3) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査の結果、14 校全ての小学校が石見銀山学習を実施しており、石見銀山基金の範囲を超えた発展的な「石見銀山学習」を実施している小学校は 2 校、「石見銀山遺跡とその文化的景観」

以外の世界遺産に関する学習を実施している小学校は2校であった。

「石見銀山遺跡とその文化的景観」に関する学習への意識は高いが、それ以外の世界遺産に関する学習はほとんど実施されていないことが分かった。

小学校外でも、「石見銀山遺跡とその文化的景観」に関する学習を手助けしている団体が存在している。熊谷家住宅では「家の女たち」⁸⁾により『昔のくらし体験』が実施されており、「NPO 法人 緑と水の連絡会議」⁹⁾は大田市内の「みーもスクール」モデル校と「石見銀山」を意識した活動を展開している。

独自の「石見銀山学習」の実施や他の世界遺産に関する学習の実施は、教諭の意欲や偶然のきっかけが要因となっていた。ここから、地域外の世界遺産に関する学習も工夫次第で実施可能であることが分かる。また、小学校の実施以外でも、「石見銀山遺跡とその文化的景観」に関する学習を助けるような団体が存在しており、この存在が世界遺産教育を助ける一因となっていると考えられる。小学校及び自治体は「石見銀山学習」をより深めるため、今後は学校区とのつながりを意識した学習を進めたいと考えている。

以上より、大田市では、世界遺産教育を実施する環境が小学校の枠組みを越えて存在していることが明らかとなった。

5. 結論

小学校における世界遺産教育の現状を田渕ら¹⁰⁾(2007)の3つの概念に当てはめた。

本研究で特に着目した「世界遺産についての教育」は、知識や理解を深めるという点では少なからず全国的に実施されていると考えられる。それは、小学校用教科書(社会・地理)の世界遺産の記載状況やアンケート調査の結果より、小学校の教育課程内において世界遺産についての知識を少なからず培うことが明らかとなったからである。また、アンケート調査より、遠足・見学といった、学校行事等で実際に地域の世界遺産へ足を運んでいる地域があり、「世界遺産のための教育」を実施している地域も一部みられた。大田市では事前・事後学習を含めた現地学習として石見銀山学習を実施しており、さらに、温泉津小学校や「みーも

スクール」の事例より、「世界遺産を通しての教育」も実施されていることが明らかとなった。

以上より、小学校において「世界遺産のための教育」や「世界遺産を通しての教育」も工夫次第で実施可能であることが明らかとなった。

今後、「世界遺産のための教育」や「世界遺産を通しての教育」を実施していくためには自治体の協力が重要である。自治体が発行する地域の文化遺産に関する教材や教師用手引きの存在が、実際に指導する小学校教諭の助けとなる。学校現場(小学校)では、島根県大田市のような、世界遺産教育の成功例を参考にした授業づくりが求められ、地域(関連団体)等とより連携していくような体制づくりが望ましいと考えられる。

今後、日本の小学校で世界遺産教育を実施する際には、成功例を国内全体で共有し、各地域に則した世界遺産教育の実施を心がけていくことが望ましいと考える。

参考文献

- 1) 外務省 HP 「世界遺産条約」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/kyoryoku/unesco/isan/world/isan_1.html
- 2) UNESCO HP
「World Heritage Education Programme」
<http://whc.unesco.org/en/wheducation/>
- 3) 奈良市 HP
<http://www.city.nara.lg.jp/www/contents/1197370021935/>
- 4) 田渕五十生、中澤静男：E S D を視野に入れた世界遺産教育
—ユネスコの提起する教育をどう受けとめるか—、教育実践総合センター研究紀要(16)、pp. 59- 66、2007
- 5) 文部科学省「新学習指導要領・生きる力」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/1297332.htm
- 6) 文部科学省「生きる力」保護者用パンフレット pp.18
- 7) 島根県庁 HP
http://www.pref.shimane.lg.jp/ringyo/mizumori/meemo_school.html
- 8) 国指定重要文化財 熊谷家住宅
<http://kumagai.city.ohda.lg.jp/25.html>
- 9) NPO 法人 緑と水の連絡会議 HP
<http://www.iwami.or.jp/ohgreen/>

10) 参考文献 4)より

注

注 1) 「文部科学省 小学校用教科書目録」(平成 26 年度使用)
より記載

注 2) 長崎市に 2 件送付

注 3) 例) 島根県大田市の場合

設問 A:『石見銀山遺跡とその文化的景観』の歴史や価値、文
化財に関する学習

設問 B:『石見銀山遺跡とその文化的景観』以外の世界遺産に
関する学習

注 4) 大田市石見銀山課ヒアリングより